

## 2 総合農学科 第2学年教育指導計画表

### (1) 教養科目 (各コース共通)

科目名 時間 担当講師	教育のねらい	内 容	教科書	評価方法
英語Ⅱ 16時間 (清家 正亀)	農業英単語と簡易な会話を基本動詞とともに習得し、情報収集力と発信力を高める。	1. 農業英単語の学習 2. 生活基本動詞の習得 3. 基本フレーズの習得	配布資料 オンライン記事	筆記テスト オンラインテスト 出席率
情報処理Ⅱ 32時間 (籾野 航大) (伊達 志穂美)	プレゼンテーションに関する基礎知識を習得させる。	1. プレゼンテーションソフトの概要 2. 表や図を使ったプレゼンテーション作成 3. スライドショーによる発表シミュレーション	「できるWord&Excel&Power Point2021」  「実技で学ぶ情報モラル」	出席状況 受講態度 テスト
社会人基礎力Ⅱ 16時間 (外部講師)	社会人として必要な基本的知識を習得させる。	1. 家計管理、ローン・クレジット対策 2. 海外農業研修セミナー 3. 情報発信ツールの利用 (仮) 4. 金融公庫セミナー 5. デートDV講座 等		出席状況  受講態度
進路対策ゼミⅡ 16時間 (外部講師)	自営や法人就農・農業関連団体への就職に向けての対策や対応を学ぶ。	1. 労働法について 2. 面接マナー講座 3. 法人マッチング等		出席状況 受講態度

### (2) 専門科目 (各コース共通)

科目名 時間 担当講師	教育のねらい	内 容	教科書	評価方法
農業DXⅡ 16時間 (外部講師)	スマート農機やデジタルデータの活用方法を学び、生産現場で応用できる知識や技術を身に付けさせる。	1. トレンド把握とマーケティング 2. スマート農機の開発と効果 3. データの収集と活用 4. 農業DX各論		出席状況 受講態度
農業経営分析・設計 16時間 (井上 俊一)  ※ア選	経営計画及び投資・資金利用計画を作成させる。 財務諸表分析を通じて、経営分析を学ばせる。	1. 適切な経営改善計画の作成について 2. 財務諸表分析の習得	「経営分析の基本：この1冊ですべてわかる」 日本実業出版社 『財務3表一体理解法「管理会計」編』 國貞克則著、朝日新書 配布資料	出席状況 試験(1回)
農業政策と農業組織 16時間 (斉藤 正幸) (外部講師)	国や県、各農業組織における役割について理解させる。	1. 愛媛県の農業・農村の現状 2. 農業政策と行政の対応 3. 農業協同組合の役割 4. 農業共済組合の役割	「私たちとJA」他	出席状況 受講態度 ミニテスト
6次起業論 16時間 (松岡 秀子)	農業経営の部門として6次化・起業家に関する基礎知識を修得させる。	1. 農家の起業、6次産業化とは 2. 地域資源を生かした商品開発 3. 自分ブランドづくり (商品開発と販売戦略)	配布資料	出席状況 テスト

(2) 専門科目 (各コース共通) つづき

科目名 時間 担当講師	教育のねらい	内 容	教科書	評価方法
農畜産物加工Ⅱ 16時間 (食品産業 センター職員)	加工食品の特性と加工の原理を習得させる。	1. 農産物加工技術の基礎 2. 地域農産物の利用と事例 3. 食品の冷凍及び穀類の加工 4. 発酵食品について	配布資料	テスト
農業機械利用Ⅱ 32時間 (真田 誠)	農業機械の利用方法についての応用知識と技術を習得させる。	1. 各種機械の構造と応用活用 2. 点検整備と故障診断 3. 農業機械の簡易な修繕演習 4. 農業機械の効率利用 5. 農業機械の作業安全	配布資料 「農業機械の構造と利用」 農文協	出席状況 受講態度 試験成績 を総合して 評価
農業のグローバル化 16時間 (椿 真一) ※ア選	グローバル化が進展する現在の食と農の姿、抱える課題等について、統計データ等を用いて講義し、進むべき方向は何かを考えていく。	1. グローバル化と食の現状 2. グローバル化が農業・食料・環境におよぼす影響 3. 農産物貿易の仕組みと国際制度 4. 日本の農産物輸出の現状と輸出方法	配布資料	毎回の課題とレポート、および最終日の理解度テストで総合的に判断

(3) 専攻科目 (農産園芸コース)

科目名 時間 担当講師	教育のねらい	内 容	教科書	評価方法
生物工学 32時間 (大橋 広明) ※ア選	生物工学の基礎と農業への利用技術を習得させる。	1. 生物工学の概要 2. 植物組織培養法の基礎 3. 実技：無菌操作の基礎 4. 生物工学の利用・繁殖1 5. 生物工学の利用・繁殖2 6. 生物工学の利用・育種1 7. 実技：培養物の観察 8. 生物工学の利用・育種2	配布資料	出席状況 受講態度 試験成績 を総合評価
土壌と肥料設計 32時間 (山内 豊) ※ア選	土壌の理化学性と各種作物への施肥方法及び土づくり対策などの専門的知識を習得させる。	1. 土壌診断と土づくり対策 2. 作物の栄養と作用機作 3. 作物別特性と施肥法 4. 施肥設計	「土と施肥の 新知識」 農文協 配布資料	筆記試験 出席状況 受講態度
病虫害と防除計画Ⅱ 32時間 (芝田 英明) ※ア選	作物・野菜・花き病虫害の発生生態、防除技術などの各論を通して、専門的知識を習得させる。	1. 農薬の作用機作とメカニズム 2. 作物・野菜・花き病虫害の発生生態 3. 作物・野菜・花き病虫害の総合防除法 4. 新発生病虫害の生態と防除	「病気・害虫 の出方と農薬 選び」 農文協 配布資料	出席状況 受講態度 試験成績 を総合して 評価
施設園芸概論 32時間 (中川 建也) ※ア選	野菜・花きの施設栽培における作型と栽培管理技術についての専門的知識を習得させる。	1. 施設栽培の基礎 2. 施設の種類と構造 3. 野菜・花き施設栽培の作型 4. 作目・作型別栽培の要点 5. 養液栽培の基礎 6. 施設導入の経営的意義	配布資料	筆記試験 受講態度
野菜栽培各論 32時間 (中須賀 安志) ※ア選	主要野菜の作型とその栽培管理技術について、専門的な知識を習得させる。	1. 野菜栽培の現状と振興方向 2. 主要野菜の作型と栽培管理技術 3. 施設野菜栽培管理技術 4. 生理障害診断対策	「野菜栽培の 基礎」 農文協	筆記試験 受講態度

※ア選はアグリビジネス科の選択科目

(3) 専攻科目 (農産園芸コース) つづき

科目名 時間 担当講師	教育のねらい	内 容	教科書	評価方法
花き栽培各論 32時間 (清水 光男) ※ア選	主要花きの作型とその栽培管理技術について、専門的な知識を習得させる。	1. 花き栽培の現状と振興方向 2. 主要花きの作型と栽培管理技術 3. 開花調節技術 4. 品質保持技術	「草花栽培の基礎」 農文協 配布資料	筆記試験 出席状況 受講態度
作物栽培各論 32時間 農産園芸課 (辻田 泉) (木下 佳) ※ア選	主要作物の栽培管理技術について、専門的な知識を習得させる。	1. 作物栽培の現状と振興方向 2. 主要作物の栽培管理技術 3. 作物の生理生態と品種 4. 流通と経営の特徴	「作物栽培の基礎」 農文協 配布資料	筆記試験 出席状況 受講態度
農産物流通 16時間 (塩梅 伸一) ※ア選	農産物の流通・価格形成等について、基礎的知識を習得させる。	1. 流通と市場の原理 2. 青果物流通と卸売市場 3. 価格形成の仕組み 4. 流通の動向とマーケティング	配布資料	筆記試験 受講態度
卒業論文 48時間 (農大職員・試験研究機関)	農業生産技術・経営設計プロジェクト等についての成果の取りまとめ。	1. 問題点の抽出と解決策の検討 2. 調査・研究の推進 3. 成果の取りまとめ 4. 発表・評価		

※ア選はアグリビジネス科の選択科目

(3) 専攻科目 (果樹コース)

科目名 時間 担当講師	教育のねらい	内 容	教科書	評価方法
生物学 32時間 みかん研究所 (奥貞 文博) (菅原 大士郎) ※ア選	生物学の基礎とその利用技術を習得させる。	1. 生物学の基礎 2. 生物学利用技術の歴史 3. 生物学を利用した品種開発 4. 食の安全・安心と生物学 5. 生物学利用技術の基礎演習	配布資料	授業・演習への取り組み60%、試験40%
土壌と肥料設計 32時間 (山内 豊) ※ア選	土壌の理化学性と各種果樹への施肥方法及び土づくり対策などの専門的知識を習得させる。	1. 土壌診断と土づくり対策 2. 果樹の栄養と作用機作 3. 作物別特性と施肥法 4. 施肥設計	「土と施肥の新知识」 農文協 配布資料	筆記試験 出席状況 受講態度
病害虫と防除計画Ⅱ 32時間 (芝田 英明) ※ア選	果樹病害虫の発生生態、防除技術などの各論を通して、専門的知識を習得させる。	1. 農薬の作用機作とメカニズム 2. かんきつ病害虫の発生生態と総合防除法 3. 落葉果樹病害虫の発生生態と総合防除法 4. 新発生病害虫の生態と防除	「病気・害虫の出方と農薬選び」 農文協 配布資料	出席状況 受講態度 試験成績を総合して評価
施設園芸概論 32時間 果樹研センター (佐伯 駿) ※ア選	果樹の施設栽培における作型と栽培管理技術についての専門的知識を習得させる。	1. 施設栽培総論 2. 施設の種類と構造 3. 作目と温度・水分等管理 4. 作目・作型別栽培の要点 5. 施設導入の経営的意義	配布資料	レポート又はテスト
果樹栽培各論 32時間 (越智 政勝) ※ア選	主要な落葉果樹の種類についてその特性を把握させ、栽培全般の専門的知識を習得させる。	1. 落葉果樹栽培の現状と振興方向 2. 落葉果樹の高品質安定生産技術 3. 品種と生理生態	「果樹栽培の基礎」 農文協	出席状況 筆記試験

※ア選はアグリビジネス科の選択科目

(3) 専攻科目 (果樹コース) つづき

科目名 時間 担当講師	教育のねらい	内 容	教科書	評価方法
かんきつ論 32時間 (政本 泰幸) ※ア選	かんきつの品質向上と安定生産技術を、かんきつ樹の形態、生理、機能面から学ばせる。	1. かんきつ生産の現状と振興方向 2. かんきつの品種と特性 3. 生育と生理の特性 4. かんきつの高品質安定生産技術	配布資料	出席状況 テスト
農産物流通 16時間 (塩梅 伸一) ※ア選	農産物の流通・価格形成等について、基礎的知識を習得させる。	1. 流通と市場の原理 2. 青果物流通と卸売市場 3. 価格形成の仕組み 4. 流通の動向とマーケティング	配布資料	筆記試験 受講態度
卒業論文 48時間 (農大職員・ 試験研究機関)	農業生産技術・経営設計プロジェクト等についての成果の取りまとめ。	1. 問題点の抽出と解決策の検討 2. 調査・研究の推進 3. 成果の取りまとめ 4. 発表・評価		

※ア選はアグリビジネス科の選択科目

(3) 専攻科目 (畜産コース) (令和8年度は畜産コース第2学年不在)

科目名 時間 担当講師	教育のねらい	内 容	教科書	評価方法
生物工学 32時間 畜産研究センター (木下 政健) 養鶏研究所 (難波江 祐介) ※ア選	生物工学の基礎とその利用技術を習得させる。	1. 生物工学の基礎 2. 人工授精技術 3. 受精卵移植等先端技術	「家畜人工授精講習会テキスト」(日本家畜人工授精師協会) 配布資料 (畜産) 配布資料 (養鶏)	修業試験 受講態度
畜産経営 32時間 畜産研究センター (今井 士郎) ※ア選	畜産経営における生産費の分析や経営設計を総括的に学習させる。	1. 畜産経営の目標、組織 2. 畜産の経営、経済、収益性 3. 畜産の経営管理 4. 経営指導の目標 5. 畜産の経営計画 6. 畜産経営の記録と分析 7. 畜産の生産、資金、販売管理	配布資料	筆記 受講態度
環境保全とふん尿処理 16時間 畜産課 (水島 優真) ※ア選	環境に留意した糞尿処理技術について専門的知識を習得させる。	1. 家畜経営と環境 2. 糞尿処理の手法 3. 糞尿処理の効果	配布資料	テスト
家畜衛生 32時間 中予家畜保健衛生所 (岡崎 直仁) ※ア選	家畜の健康と病気の予防及び環境衛生などに関する専門的知識を習得させる。	1. 家畜衛生の意義と役割 2. 疾病予防総論 3. 防疫の原則 4. 消毒の定義と方法 5. 予防接種 6. 衛生動物の駆除(中毒) 7. 感染症と寄生虫病	「畜産現場のバイオセキュリティ」 緑書房	修業試験 受講態度

※ア選はアグリビジネス科の選択科目

(3) 専攻科目 (畜産コース) つづき

科目名 時間 担当講師	教育のねらい	内 容	教科書	評価方法
家畜飼養管理Ⅱ 48時間 畜産研究センター (家木 一) 乳牛 (山本 哲) 肉牛 (稲垣 祝) 豚 養鶏研究所 (村上 恭彦) ※ア選	家畜の飼養計画や飼養技術、施設や経営についての専門的知識を習得させる。	1. 各家畜における品種と飼養形態及び飼養計画 2. 家畜に対する環境の影響 3. 飼料配合と給与 4. 幼令期の育成 5. 畜舎等畜産施設の種類と特性 6. 経営の実態と今後の経営方針 7. 家畜審査と発情鑑定	配布資料	修業試験 受講態度
飼料栄養Ⅱ 32時間 畜産研究センター (戸田 広城) 養鶏研究所 (高橋 夏実) ※ア選	家畜の栄養と飼料給与についての専門的知識を習得させる。	1. 飼料の加工と給与 2. 飼料作物の生産と障害 3. 飼料作物の利用 4. 栄養素と飼料成分 5. 家畜の消化と呼吸 6. 家畜の養分要求量 7. 飼料の安全性	「草地管理指標 (飼料作物生産利用技術編) H26.11版」[日本草地種子協会] (畜産) 配布資料 (養鶏)	修業試験 受講態度
畜産流通 16時間 畜産課 (河野 聡馬) ※ア選	畜産物の流通・価格形成等について基礎的な知識を習得させる。	1. 流通と市場の原理 2. 畜産物流通と卸売市場 3. 価格形成の仕組み	配布資料	レポート・ テスト
卒業論文 48時間 (農大職員・試験研究機関)	農業生産技術・経営設計プロジェクト等についての成果の取りまとめ。	1. 問題点の抽出と解決策の検討 2. 調査・研究の推進 3. 成果の取りまとめ 4. 発表・評価		

※ア選はアグリビジネス科の選択科目

(4) 実習

科目名 時間 担当講師	教育のねらい	内 容	教科書	評価方法
専攻実習Ⅲ 416時間 専攻実習Ⅳ 320時間 (農産園芸コース)  (農大職員・試験研究機関)	農林水産研究所及び農業大学校において、専門的な技術や農業DX等の先進技術、農作物加工技術等を学ばせるとともに、個別の課題に対する解決法を習得させる。また、県内の先進農家等において、先進的な農業経営及び農家生活を体験し、農業に関する知識や技術を習得するとともに、農村社会の理解を深めさせる。	1. 栽培管理 高品質・低コスト安定生産 2. 病虫害防除 総合防除・耕種的防除技術 品種抵抗性 3. 土壌管理 施肥・土づくり技術 土壌理化学性分析・改善対策 4. 優良品種の育成 組織培養等による品種育成 5. 野菜の品質保持 品質保持技術 6. 課題解決学習 7. 先進農家実習 先進的農業経営及び農家生活体験 8. スマート農業機器体験実習 9. 加工実習		出席状況 実習査定

(4) 実習 つづき

科目名 時間 担当講師	教育のねらい	内 容	教科書	評価方法
		10. その他 (希望者) ・ドローン実習 ・フラワーアレンジメント実習 ・食品衛生責任者資格取得講習		
専攻実習Ⅲ 384時間 専攻実習Ⅳ 352時間 (果樹コース) (農大職員・ 試験研究機関・ 外部講師)	果樹研究センター及び農業大学校において、専門的な技術や農業DX等の先進技術、農作物加工技術等を学ばせるとともに、個別の課題に対する解決法を習得させる。また、県内の先進農家等において、先進的な農業経営及び農家生活を体験し、農業に関する知識や技術を習得するとともに、農村社会の理解を深めさせる。	1. 栽培管理 高品質連年安定生産 植調剤等による生長調節 優良系統品種の栽培管理 2. 病虫害防除 総合防除法と品種抵抗性 耕種的防除管理技術 3. 土壌管理 施肥・土づくり技術 土壌理化学性分析・改善対策 4. 優良品種の育成 果樹育種の実際 系統適応性試験 5. 課題解決学習 6. 先進農家実習 先進的農業経営及び農家生活体験 7. スマート農業機器体験実習 8. 加工実習 9. その他 (希望者) ・ドローン実習 ・食品衛生責任者資格取得講習		出席状況 実習査定
専攻実習Ⅲ 384時間 専攻実習Ⅳ 352時間 (畜産コース) (農大職員・試験研究機関)	各家畜の専門的な飼養管理技術、飼料作物の生産技術及び成分分析技術等を習得させる。また、県内の先進農家等において、先進的な農業経営及び農家生活を体験し、農業に関する知識や技術を習得するとともに、農村社会の理解を深めさせる。	1. 肉用牛の飼養管理 肉用牛の栄養・繁殖・衛生 2. 乳用牛の飼養管理 乳用牛の栄養・繁殖・衛生 3. 豚の飼養管理 豚の栄養・繁殖・衛生 4. 鶏の飼養管理 鶏の栄養・繁殖・衛生 5. 飼料作物の生産管理 作付け体系による収穫・調製 栄養成分の分析 6. 先進農家実習 先進的農業経営及び農家生活体験 7. その他		出席状況 実習査定

※ア選はアグリビジネス科の選択科目